
資料名 ※一覧にはリンクを設定していません。ページ移動にはPDFのしおり（ブックマーク）をご利用ください。

1-2-1-2_開設授業科目一覧

2-3-1_司法試験の合格状況

基準 1-2 教育活動等を展開する上で必要な教員等が適切に配置されているとともに、必要な運営体制が適切に整備されていること

分析項目 1-2-1 大学院設置基準等各設置基準及び告示に照らして、必要な人数の専任教員並びに兼任及び兼任教員を配置していること

【分析の手順】

- ・教育上主要と認める授業科目の定義を確認し、該当する授業科目への専任の教授又は准教授の配置状況（該当する授業科目数、そのうち専任の教授又は准教授が担当する科目数、専任の講師が担当する科目数）を確認する。
- ・教育上主要と認める授業科目への専任の教授・准教授の担当に関しては、実際に授業を担当しない場合でも、専任の教授又は准教授が授業の内容、実施、成績に関して責任を持っている場合は、その授業科目を分析項目の状況に準ずるものとして分析することが可能

基準 3-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、法科大学院にふさわしい授業形態及び授業方法が採用されていること

分析項目 3-4-1 授業科目の区分、内容及び到達目標に応じて、適切な授業形態、授業方法が採用され、授業の方法及び内容が学生に對して明示されていること

【分析の手順】

- ・授業の内容及び方法等が、大学設置基準等各設置基準の規定を満たしており、それらが学生に對して明示されていることを確認する。
- ・少人数による双方向的又は多方向的な密度の高い授業方法を基本としつつ、例えば法律基本科目の基礎科目においては、基礎的な学識を涵養するために適切な方法で授業が実施されていることを確認する。

分析項目 3-4-4 同時に授業を行う学生数は少人数が基本とされ、特に法律基本科目については原則として50人以下となっていること

【分析の手順】

- ・法律基本科目において同時に授業を行う学生数が50 人を超える授業科目がある場合は、授業の方法及び施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮し、十分な教育効果が上げられるものとなっていることを確認する。
- ・同時に授業を行う学生数が極めて少ない授業科目がある場合は、当該授業科目の教育効果が十分に上げられるものとなっていることを確認する。

分析項目 3-4-5 各授業科目における授業時間の設定が、単位数との関係において法令に基づく大学の定めに関連したものとなっていること

【分析の手順】

- ・授業時間の設定が、授業の方法（講義、演習、実習）に応じて、単位数との関係において学期又は大学院学則等に則したものであることを確認する。

開設授業科目一覧（別紙様式 1-2-1-2）

学期区分：セメスター制を採用

| 科 目 | | 主要授業科目 | 連携開設科目 | 授業科目名 | 配当年次 | 学期 | 時間数 | 単位数 | 必修・選択等 | 開講方法 | 授業方法 (形態) | 受講学生数 | | 担当教員 | | 開設単位数 計 | シラバス等の ページ | 備考 |
|----------------|------------------------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|-------------|-------|---------|---------|---------|--|--|---|------------------------------------|---------------------------------------|-------------|---------------|---------|
| | | | | | | | | | | | | LSの学生 | LS外の学生 | 教員名 | 分類 | | | |
| 法律 基本 科目 | 公法系科目 (憲法・行政法) | 基礎科目 | ○ | 憲法基礎 | 1 | 春 | 46.7 | 4 | 必修 | 毎年 | 講義 | 20 | 研・専 | 巻 美矢紀 | 研・専 | 13 | 1-5 | |
| | | | ○ | 行政法基礎 | 1・2 | 春 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 28 | 大橋 真由典 | 兼任 | 6-8 | | | |
| | | 応用科目 | ○ | 憲法 | 2 | 春 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 25 | 上田 健介 | 兼任 | 55-61 | | | |
| | | | ○ | 行政法 | 2・3 | 秋 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 21 | 平 裕介 | 兼任 | 62-70 | | | |
| | | ○ | 公法総合Ⅰ | 3 | 春 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 講義 | 12 | 伊藤 雄司、 上田 健介 | 専・他 兼任 | 124-126 | | | | |
| | | ○ | 公法総合Ⅱ | 3 | 秋 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 講義 | 8 | 伊藤 雄司、 上田 健介 | 専・他 兼任 | 127-129 | | | | |
| | | 基礎科目 | ○ | 憲法演習 | 2 | 秋 | 11.7 | 1 | 選択 | 毎年 | 演習 | 5 | 上田 健介 | 兼任 | 176-178 | | | |
| | | | ○ | 民法基礎Ⅰ | 1 | 春 | 46.7 | 4 | 必修 | 毎年 | 講義 | 21 | 清岡 将敏 | 兼任 | 9-19 | | | |
| | | | ○ | 民法基礎Ⅱ | 1 | 秋 | 35 | 3 | 必修 | 毎年 | 講義 | 16 | 永下 泰之 | 研・専 | 20-26 | | | |
| | | | ○ | 民法基礎Ⅲ | 1 | 秋 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 15 | 羽生 香織 | 兼任 | 27-30 | | | |
| | ○ | | 民法基礎Ⅳ | 1 | 春 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 講義 | 21 | 永下 泰之 | 研・専 | 31-33 | | | | |
| | ○ | | 商法基礎 | 1 | 秋 | 46.7 | 4 | 必修 | 毎年 | 講義 | 18 | 土田 亮 | 研・専 | 34-38 | | | | |
| | ○ | | 民事訴訟法基礎 | 1 | 秋 | 46.7 | 4 | 必修 | 毎年 | 講義 | 16 | 田原 肇一 | 専・他 | 39-42 | | | | |
| | ○ | | 民法A | 2 | 春 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 25 | 伊藤 栄寿 | 兼任 | 71-76 | | | | |
| | ○ | | 民法B | 2 | 春 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 25 | 永下 泰之 | 研・専 | 77-82 | | | | |
| | ○ | | 民法C | 2 | 秋 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 25 | 清岡 将敏 | 兼任 | 83-87 | | | | |
| | 民事系科目 (民法・商法・民事訴訟法) | 応用科目 | ○ | 商法A | 2・3 | 春 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 23 | 早川 映郎 | 研・専 | 88-93 | | | |
| | | | ○ | 商法B | 2・3 | 秋 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 講義 | 23 | 早川 映郎 | 研・専 | 94-98 | | | |
| | | ○ | 民事訴訟法A | 2・3 | 春 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 25 | 原 強 | 研・専 | 99-104 | | | | |
| | | ○ | 民事訴訟法B | 2・3 | 秋 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 講義 | 23 | 安西 明子 | 兼任 | 105-107 | | | | |
| | | ○ | 民法法総合Ⅰ | 3 | 春 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 7 | 伊藤 肇一、 対木 和夫、 土田 亮 | 専・他 研・専 研・専 | 130-132 | | | | |
| | | ○ | 民法法総合Ⅱ | 3 | 秋 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 8 | 伊藤 肇一、 対木 和夫、 永下 泰之、 土田 亮 | 専・他 研・専 研・専 研・専 | 133-135 | | | | |
| | | ○ | 民法基礎演習 | 1 | 秋 | 11.7 | 1 | 選択 | 毎年 | 演習 | 14 | 永下 泰之 | 研・専 | 167-169 | 2019年度以降入学者の3年制 コース生は選択必修科目として履修 | | | |
| | | ○ | 民事訴訟理論と実務 | 1～3 | 春 | 23.3 | 2 | 選択 | 毎年 | 講義 | 6 | 原 強 | 研・専 | 170-172 | 2019年度以降入学者の3年制 コース生は選択必修科目として履修 | | | |
| | | ○ | 民法演習 | 2 | 秋 | 23.3 | 2 | 選択 | 毎年 | 演習 | 3 | 永下 泰之 | 研・専 | 173-175 | | | | |
| | | ○ | 商法演習 | 2 | 秋 | 11.7 | 1 | 選択 | 毎年 | 演習 | 6 | 早川 映郎 | 研・専 | 179-183 | | | | |
| | 刑事系科目 (刑法・刑事訴訟法) | 基礎科目 | ○ | 民事訴訟法演習 | 2 | 秋 | 11.7 | 1 | 選択 | 毎年 | 演習 | 5 | 安西 明子 | 兼任 | 189-190 | | | |
| | | | ○ | 企業取引法 | 3 | 春 | 23.3 | 2 | 選択 | 毎年(不開講) | 講義 | 0 | 伊藤 雄司 | 兼任 | - | 履修者なしのため不開講 | | |
| | | ○ | 刑法基礎 | 1 | 春 | 46.7 | 4 | 必修 | 毎年 | 講義 | 19 | 伊藤 渉 | 兼任 | 43-48 | | | | |
| | | ○ | 刑事訴訟法基礎Ⅰ | 1 | 秋 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 16 | 朝山 芳宏 | 実・専 | 49-52 | | | | |
| | | ○ | 刑事訴訟法基礎Ⅱ | 1 | 秋 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 16 | 朝山 芳宏 | 実・専 | 53-54 | | | | |
| | | ○ | 刑法 | 2 | 春 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 25 | 佐藤 結実 | 研・専 | 105-110 | | | | |
| | | ○ | 刑事訴訟法A | 2・3 | 春 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 23 | 岩下 雅弘 | 研・専 | 111-118 | | | | |
| | | ○ | 刑事訴訟法B | 2・3 | 秋 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 講義 | 22 | 岩下 雅弘 | 研・専 | 119-123 | | | | |
| | | ○ | 刑事法総合Ⅰ | 2・3 | 春 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 講義 | 13 | 伊藤 結実、 朝山 芳宏 | 研・専 実・専 | 136-138 | | | | |
| | | ○ | 刑事法総合Ⅱ | 3 | 秋 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 講義 | 7 | 伊藤 結実、 朝山 芳宏 | 研・専 実・専 | 139-141 | | | | |
| | 総合 | 応用科目 | ○ | 刑法演習 | 2 | 秋 | 11.7 | 1 | 選択 | 毎年 | 演習 | 2 | 佐藤 結実 | 研・専 | 184-185 | | | |
| | | | ○ | 刑事訴訟法演習 | 2 | 秋 | 11.7 | 1 | 選択 | 毎年 | 演習 | 3 | 小林 俊彦 | 実・み | 186-188 | | | |
| | | ○ | 法学実務基礎A | 1 | 春 | 11.7 | 1 | 選択 | 毎年 | 講義 | 17 | 伊藤 雄司、 土田 亮、 新沼 隆、 南谷 高幸、 田村 剛、 藤井 聡 | 研・専 研・専 兼任 兼任 兼任 兼任 | 142-144 | 2019年度以降入学者の3年 制コース生は必修科目 として履修 | | | |
| | | ○ | 法学実務基礎B | 1 | 秋 | 23.3 | 2 | 選択 | 毎年 | 講義 | 15 | 伊藤 結実、 巻 美矢紀、 永下 泰之、 金谷 良、 浦西 洋行、 松井 智、 小寺 悠介、 南谷 高幸、 櫻井 聡 | 研・専 研・専 研・専 兼任 兼任 兼任 兼任 兼任 | 145-146 | 2019年度以降入学者の3年 制コース生は必修科目 として履修 | | | |
| | | ○ | 法学実務演習Ⅰ | 2 | 春 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 演習 | Aクラス9 Bクラス12 | Aクラス 穴戸 博幸、 Bクラス 伊藤 雄司、 土田 亮、 松井 智、 吉本 裕敏、 北澤 彩子 | 実・専 研・専 研・専 兼任 兼任 兼任 | Aクラス 147-148 Bクラス 149-150 | 2022年度以降入学者の み履修 | | | |
| | | ○ | 法学実務演習Ⅱ | 2 | 秋 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 演習 | Aクラス10 Bクラス9 | Aクラス 穴戸 博幸、 Bクラス 伊藤 雄司、 土田 亮、 松井 智、 吉本 裕敏、 北澤 彩子 | 実・専 研・専 研・専 兼任 兼任 兼任 | Aクラス 151-152 Bクラス 153-154 | 2022年度以降入学者の み履修 | | | |
| | | ○ | 法学実務演習Ⅲ | 3 | 春 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 演習 | Aクラス7 Bクラス3 | Aクラス 穴戸 博幸、 Bクラス 伊藤 雄司、 土田 亮、 田村 剛、 大見 愛彩、 原田 貴哉 | 実・専 研・専 研・専 兼任 兼任 兼任 | Aクラス 155-156 Bクラス 157-158 | 2022年度以降入学者の み履修 | | | |
| | | ○ | 法学実務演習Ⅳ | 3 | 秋 | 11.7 | 1 | 必修 | 毎年 | 演習 | Aクラス7 Bクラス3 | Aクラス 穴戸 博幸、 Bクラス 伊藤 雄司、 土田 亮、 田村 剛、 大見 愛彩、 原田 貴哉 | 実・専 研・専 研・専 兼任 兼任 兼任 | Aクラス 159-160 Bクラス 161-162 | 2022年度以降入学者の み履修 | | | |
| | | ○ | 論文演習Ⅰ | 2 | 春 | 11.7 | 1 | 選択 | 毎年 | 演習 | 9 | 穴戸 博幸 | 実・専 | 163-164 | | | | |
| | | ○ | 論文演習Ⅱ | 2 | 秋 | 11.7 | 1 | 選択 | 毎年 | 演習 | 10 | 穴戸 博幸 | 実・専 | 165-166 | | | | |
| | 法律 実務 基礎 科目 | 法曹倫理 | ○ | 法曹倫理 | 2 | 春 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 25 | 伊藤 政幸、 朝山 芳宏、 小林 俊彦 | 実・専 実・専 実・み | 2 | 191-195 | | |
| | | | ○ | 民事訴訟実務の基礎 | ○ | 訴訟実務基礎 (民事) | 2 | 春 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 23 | 松井 俊彦 | 兼任 | 2 | 196-199 |
| | | 刑事訴訟実務の基礎 | ○ | 訴訟実務基礎 (刑事) | 2・3 | 秋 | 23.3 | 2 | 必修 | 毎年 | 講義 | 28 | 伊藤 政幸、 朝山 芳宏、 伊藤 雄司 | 実・専 実・専 実・専 | 2 | 200-204 | | |
| | | | 模擬裁判 | ○ | 模擬裁判 (民事) | 3 | 秋 | 23.3 | 2 | 選択必修 | 毎年 | 演習 | 9 | 伊藤 政幸、 朝山 芳宏、 松井 俊彦 | 研・専 研・専 研・専 | 4 | 216-219 | |
| ○ | | 模擬裁判 (刑事) | | 3 | 秋 | 23.3 | 2 | 選択必修 | 毎年 | 演習 | 7 | 朝山 芳宏、 岩崎 政幸、 小林 俊彦 | 実・専 実・専 実・み | 220-222 | | | | |
| ローヤリング | | ○ | ネゴシエーション・ロイヤリング | 3 | 春学期集中 | 23.3 | 2 | 選択必修 | 毎年 | 演習 | 10 | 伊藤 政幸、 岩崎 政幸、 大橋 隆一、 森岡 耕太、 伊藤 彰 | 研・専 実・専 実・専 兼任 兼任 | 2 | 223-225 | | | |
| | | クリニック | ○ | リーガルクリニック | 3 | 秋 | 23.3 | 2 | 選択必修 | 毎年 | 講義 | 11 | 伊藤 政幸、 岩崎 政幸、 大橋 隆一、 森岡 耕太、 伊藤 彰 | | 研・専 実・専 実・専 兼任 兼任 | 226-228 | | |
| エクスターンシップ | | | ○ | ○ | エクスターンシップⅠ (法曹) | 2・3 | 春学期集中 | 45 | 1 | 選択必修 | 毎年 | 実習 | 1 | 伊藤 政幸、 穴戸 博幸、 石井 崇、 龍田 光洋 | 実・専 実・専 実・専 兼任 | 12 | 229-230 | |
| | | ○ | | エクスターンシップⅠ (法曹) | 2・3 | 秋学期集中 | 45 | 1 | 選択必修 | 毎年 | 実習 | 7 | 伊藤 政幸、 対木 和夫、 穴戸 博幸、 石井 崇、 龍田 光洋 | 実・専 実・専 実・専 兼任 兼任 | 231-232 | | | |
| | | ○ | ○ | エクスターンシップⅠ (企業等) | 2・3 | 春学期集中 | 45 | 1 | 選択必修 | 毎年(不開講) | 実習 | 0 | 伊藤 政幸、 穴戸 博幸、 石井 崇、 龍田 光洋 | 実・専 実・専 実・専 兼任 | - | 履修者なしのため不開講 | | |
| | ○ | | エクスターンシップⅠ (企業等) | 2・3 | 秋学期集中 | 45 | 1 | 選択必修 | 毎年 | 実習 | 0 | 伊藤 政幸、 対木 和夫、 穴戸 博幸、 石井 崇、 龍田 光洋 | 実・専 実・専 実・専 兼任 兼任 | 233-234 | 履修者なしのため不開講 | | | |
| | ○ | ○ | エクスターンシップⅠ (公務) | 1～3 | 春学期集中 | 45 | 1 | 選択必修 | 毎年(不開講) | 実習 | 0 | 伊藤 政幸、 対木 和夫、 穴戸 博幸、 石井 崇、 龍田 光洋 | 実・専 実・専 実・専 兼任 兼任 | - | 履修者なしのため不開講 | | | |
| | | ○ | エクスターンシップⅠ (公務) | 1～3 | 秋学期集中 | 45 | 1 | 選択必修 | 毎年 | 実習 | 3 | 伊藤 政幸、 対木 和夫、 穴戸 博幸、 石井 崇、 龍田 光洋 | 実・他 実・専 実・専 実・専 兼任 兼任 | 235-236 | | | | |
| | ○ | エクスターンシップⅡ (法曹) | 2・3 | 春学期集中 | 45 | 1 | 選択必修 | 毎年(不開講) | 実習 | 0 | 伊藤 政幸、 対木 和夫、 穴戸 博幸、 石井 崇、 龍田 光洋 | 実・専 実・専 実・専 兼任 | - | 履修者なしのため不開講 | | | | |
| | ○ | エクスターンシップⅡ (法曹) | 2・3 | 春学期集中 | 45 | 1 | 選択必修 | 毎年(不開講) | 実習 | 0 | 伊藤 政幸、 対木 和夫、 穴戸 博幸、 石井 崇、 龍田 光洋 | 実・専 実・専 実・専 兼任 | - | 履修者なしのため不開講 | | | | |

(注) 1. 評価実施年度の5月1日現在で、当該年度開設授業科目（当該年度入学者適用）を記入してください。なお、評価実施年度に開設されていない授業科目（不開設、隔年開講等）についても記入してください。不開設の授業科目については、その理由を『備考』に簡潔に（例：教員未定のため、カリキュラム改編による当該年度未開講など）記入してください。

2. 1学期授業科目については、採用している学期の類型（セメスター・トリスター制等）を記入してください。

3. 『主要授業科目』については、大学設置基準第8条に規定する教育上必要とされる授業科目に該当する授業科目に「○」を記入してください。

4. 『後援開講科目』については、当該大学が他大学と協定により共同で開講する、当該大学に設置された専攻に属する、当該専攻の設置者（他大学の当該専攻推進機構法人等）が設置して開設している授業科目に該当する授業科目に「◎」を記入してください。

5. 法律系科目については、開設している授業科目を、4つの科目（法律基本科目、法律実務基礎科目、基礎法学・先端科目、専門・先端科目）に区分整理して記入してください。ただし、4つの科目に区分することができない授業科目については、新たに科目分野を設けて記入してください。

6. 法律系基本科目中、公法系・民事系・刑事系の3つの系に区分することができない授業科目については、これらの系の下に枠を設けて記入してください。

7. 『配当年次』については、配当年次が複数の場合は、該当する配当年次すべて記入してください（例：2、3年次配当の場合は、『2・3』と記入してください。）。

8. 『学期』については、『前期』・『後期』等の区分を記入してください。また、集中講義を行っている場合には、『前期集中』・『後期集中』・『夏 semester 集中』等の区分を記入してください。

9. 『時間数』については、当該開設授業科目における総時間数（例：90分授業が15回進行する場合に、22.5時間となります。）を記入してください。ただし、試験時間については、含まないものとします。

10. 『単位数』については、規程等により定められた当該授業科目の単位数を記入してください。1つの授業科目が複数科目で開設されている場合には、重複して計算しないてください。

11. 『必修・選択等』については、『必修』・『選択』・『選択必修等』の区分を記入してください。

12. 『開講方法』については、『毎学』と記入してください。なお、隔年開講については、今年度開設している「隔年○」、開講していなければ「隔年×」と記入してください。また、毎年開講するが、評価実施年度は不開設の授業科目については、『毎年（不開設）』と記入してください。

13. 『授業方法（形態）』については、『講義』・『演習』・『実習』等各授業科目の実施形態を記入し、これらを組み合わせている場合には該当する形態をすべて記入してください。

14. 『受講学生数』については、『LSの学生』には当該法科大学院の学生の人数を、『LS外の学生』には当該法科大学院の学生以外の人数をそれぞれ記入してください。また、同一授業科目を複数クラス開講している場合には、それぞれ記入してください。（例：同一授業科目が2クラス開講されており、それぞれ50人×4人、LS外の学生は2人×40人×4人、LS外の学生は0人の場合には、『LSの学生に10×48、2×40』と記入し、『LS外の学生に1』と記入してください。）

なお、後期や集中講義時に開講のため、5月1日現在で4月末が授業の空席のままとなっている、当該授業科目の内容、実施及び成績評価については担任を特記し、氏名の後に「◎」を付してください。また、1つの授業科目が複数クラス開講されている場合は、各クラスの担当教員をそれぞれ特記し、氏名の後に「◎」を付してください。なお、教員の割別内職の「分類」の欄には「1」を記入してください。

15. 『開講単位合計』については、法律系科目の公法系・民事系・刑事系の各系、法律実務基礎科目の法倫理、民事訴訟実務の各系、実務・新設実務の基礎の各系、基礎法学・先端科目・専門科目及び専門・先端科目の各科目区分がそれぞれ一つの枠になっているので、それぞれに該当する授業科目の単位数の合計を記入してください（凡例には数式を設定しております。1枠の枠入りをし、参照範囲がずれた場合には修正してください。直接数値を記入していただいてもかまいません）。

16. 『ラブラ等のページ』については、シラバス等の授業計画に添付した冊子中の該当ページを記入してください。

基準 2－3（重点評価項目） 法科大学院の目的に則した人材養成がなされていること

分析項目 2－3－1 修了者（在学中に司法試験を受験した在学生を含む。）の司法試験の合格状況が、全法科大学院の平均合格率等を踏まえて適切な状況にあること

【分析の手順】

- ・直近 5 年間の未修者・既修者別を含む司法試験の合格率を算出し、全法科大学院の平均合格率と比較して適切な状況にあることを確認する。
- ・上記手順において適切な状況にあるとは言えない場合は、直近 5 年間の未修者・既修者別を含む司法試験の合格率と当該法科大学院が自ら目標として設定している合格率を比較し、適切な状況にあることを確認する。
- ・法曹養成連携協定を締結し、文部科学大臣の認定を受けている場合は、特別選抜により連携法科大学院に進学した認定連携基礎課程からの進学者（法学部 3 年次終了後に早期卒業により法学既修者として入学した者や、それ以外の者も含む。）の司法試験の合格率についても算出し、法曹養成連携協定締結時に目標として設定した合格率と比較し、適切な状況にあることを確認する。

司法試験の合格状況（別紙様式 2－3－1）

各年度における司法試験合格状況

| 司法試験実施年度 | 受験者数 | | | 合格者数 | | | 合格率 | | | 基準ごとの分析を行った際に比較した合格率 | |
|--------------|-------|-------|-----|-------|-------|----|--------|--------|--------|----------------------|-------------|
| | 法学未修者 | 法学既修者 | 計 | 法学未修者 | 法学既修者 | 計 | 法学未修者 | 法学既修者 | 計 | 数値 | 数値の説明 |
| 令和4(2022)年度 | 20 | 25 | 45 | 5 | 1 | 6 | 25.00% | 4.00% | 13.33% | 12.40% | 過去5年間の平均合格率 |
| 令和3(2021)年度 | 31 | 29 | 60 | 3 | 4 | 7 | 9.67% | 13.79% | 11.66% | 12.05% | 過去5年間の平均合格率 |
| 令和2(2020)年度 | 38 | 36 | 74 | 6 | 2 | 8 | 15.78% | 5.55% | 10.81% | 12.04% | 過去5年間の平均合格率 |
| 令和元(2019)年度 | 47 | 49 | 96 | 2 | 9 | 11 | 4.25% | 18.36% | 11.45% | 12.89% | 過去5年間の平均合格率 |
| 平成30(2018)年度 | 52 | 70 | 122 | 10 | 8 | 18 | 19.23% | 11.42% | 14.75% | 14.53% | 過去5年間の平均合格率 |

上記のうち、法曹養成連携協定の特別選抜枠による進学者に係る状況 ※令和 5 年度は対象外

| 司法試験実施年度 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 法曹養成連携協定締結時に 目標として設定した合格率 |
|----------|------|------|-------|------------------------------|
| ○年度 | | | 0.00% | |
| (○－1)年度 | | | 0.00% | |
| (○－2)年度 | | | 0.00% | |
| (○－3)年度 | | | 0.00% | |
| (○－4)年度 | | | 0.00% | |

- （注）1. 「○(年度)」には評価実施年度の前年度を記入し、当該年度を起点とした過去5年度分の実績について記入してください。
2. 「受験者数」、「合格者数」欄には、司法試験が実施された各年度における、下記の状況が分かるよう記入してください。
- ・5年の評価期間中に実施される各年度の司法試験について、当該法科大学院の修了を受験資格として司法試験を受験した者に対する司法試験を合格した者の割合
3. 「合格率」欄には、「合格者数」を「受験者数」で割った値(小数点第5位を切り捨て)が自動表示されます。
- （例:合格者数が13人、受験者数が74人の場合には、 $13 \div 74 = 0.17567 \cdots \approx 0.1756$ となり、『17.56%』で表示されます。）
4. 「基準ごとの分析を行った際に比較した合格率」欄には、分析を行った際に比較した合格率の数値と、数値の説明(全法科大学院の平均合格率、当該法科大学院の過去5年間の平均合格率等)を記入してください。

修了年度別修了者における司法試験合格状況

| 修了年度 | 修了者数 | 合格者数 | | | | | | 合格率 |
|--------|------|----------|-------|-------|-------|-------|---|--------|
| | | 司法試験実施年度 | | | | | | |
| | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 計 | |
| 令和4年度 | 9 | | | | | | 0 | |
| 令和3年度 | 19 | | | | 3 | | 3 | |
| 令和2年度 | 16 | | | 2 | 1 | | 3 | |
| 令和元年度 | 17 | | 2 | 2 | 1 | | 5 | |
| 平成30年度 | 16 | 3 | 2 | 1 | 0 | | 6 | 22.07% |

- (注) 1. 「○(年度)」には評価実施年度の前年度を記入し、当該年度を起点とした過去5年度分の実績について記入してください。
2. 「修了者数」欄には、司法試験を受験しなかった者を含めて、当該年度に修了した者の人数を記入してください。
3. 「合格者数」欄には、各修了年度における修了者のうち、司法試験に合格した者の人数を記入してください。